

2. 日本文学科

日本文学科には、日本文学専攻・日本語学専攻・伝承文学専攻があり、専攻によって専門教育科目の履修方法が異なる。いずれかの専攻を選択し、履修規程に基づいて単位を修得する。また、各専攻に属しながら、日本語教育・書道・表現文化の科目も適宜履修できる。

2-1. 受講キャンパス

▼1 年次

渋谷キャンパスでの受講が主になるが、週 1 回横浜たまプラーザキャンパスでの受講がある。

▼2・3・4 年次

渋谷キャンパスでの受講が主になるが、それ以外は履修規程に従い、横浜たまプラーザキャンパスでも受講できる。

2-2. 各専攻・プログラムについて

▼日本文学専攻

古代から近現代にいたる各時代の主要な作品・作家に触れて、全体の流れをつかむとともに、個々の作品について集中的に研究することにより、日本人の心情や生活の意義・特質を明らかにすることを目標とする。

▼日本語学専攻

日本語の、古代から現代にわたる発音・文字・表記・文法・語彙・方言などについて多様な形態で伝わる文献資料はもとより各種メディアや現代日本語の動態に至るまで広く対象として研究する。さらに、進路に応じて日本語教育に必要な知識を学び、言語情報の処理能力を養い、日本語の有する法的事実を科学的に明らかにすることを目標とする。

▼伝承文学専攻

日本文化の総合的・体系的理解には、文字表現に加え、言葉や行為、感覚、さらに造形等によって受け継がれてきた伝承文化への認識が必要となる。具体的には、昔話や伝説、儀礼、芸能、衣食住など多岐にわたる文化で、これらの実態や特質について民俗学や口承文芸学、民俗芸能学等の視点から学修、究明することを目標とする。

▼表現文化プログラム

①散文表現、②韻文表現、③文字表現、④身体表現、⑤現代表現という五つの表現方法を主たる学修対象として、表現の可能性を追究してゆく。表現のありようを実践的に学ぶことによって、表現や創作などに携わることのできる人材の育成を目指す。上記の三専攻に属しつつ、必要に応じてこのプログラムの科目を履修する。

2-3. カリキュラムの構成と履修方法

- 1) 専門教育科目の専攻が分かれるのは2年次からであるが、専攻の選択は1年次後期に行い、2年次前期の履修登録の際に登録を行う。原則として、それ以降の専攻の変更は認めない。ただし、3年次前期履修登録時において変更の希望があった場合には、教務委員が検討する。
- 2) 専攻外演習である「日本語教育学演習Ⅰ」「日本語教育学演習Ⅱ」「言語学演習」「表現文化演習Ⅰ」「表現文化演習Ⅱ」「表現文化演習Ⅲ」を修得した場合、どの専攻であるに関わらず、その修得単位は専攻演習科目の単位として認定される。
- 3) 卒業論文は選択制である。3年次の履修登録時に、履修・非履修の届け出を行う。なお、3年次後期履修登録時に、教務委員・指導教員の了承を得ることにより、履修・非履修の変更ができる。それ以降の変更は、原則として認めない。(P30 参照)
- 4) 各自が選択した専攻の演習を1科目以上、4年次に履修し、単位を修得しなければならない。ただし、上記 2)に従って、記されたいずれかの科目で代替することができる。

| | | 卒業論文履修者 | 卒業論文非履修者 | 備考 | |
|--------|---------|---------|----------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 専門教育科目 | 学科基幹科目 | 学科基礎科目 | 14 単位 | 14 単位 | 必修 |
| | | 専攻基礎科目 | 12 単位 | 12 単位 | 選択必修 |
| | | 専門基礎科目 | | | 修得単位は選択Ⅰ～Ⅳ類へ算入 |
| | | 専攻演習科目 | 12 単位 | 12 単位 | 超過単位は選択Ⅰ～Ⅳ類へ算入 |
| | 専攻外演習科目 | | | 専攻演習に振り替えることができ、超過単位は選択Ⅰ～Ⅳ類へ算入 | |
| | 展開科目 | 選択Ⅰ～Ⅳ類 | 18 単位 | 26 単位 | 卒業論文非履修者は、展開科目の各専攻科目群から8単位修得すること。 |
| | 関連科目 | | | | |
| | 卒業論文 | 8 単位 | | | |